

高齢者の散歩行動からみた外出経路に関する研究 A study on the course of going out based on walk of the elderly

○藤田歩¹, 山中新太郎²*Ayumi Fujita¹, Shintaro Yamanaka²

It is necessary to prepare the regional environment easy to make elderly's out in order to live in elderly's dear old house to the last. The survey aimed to clarify the characteristic of course that easy to make elderly's out. Through the analyses, the followings became clear. 1) The elderly take frequently a walk and drop in a park and a shrine because they can walk freely with no obstacle and can sit down. 2) The elderly frequently pass the wide road separating walkers and vehicles and the bustling shopping district. So that it is an issue there is no rest space there.

1. 研究の背景と目的

日本では近年高齢化と核家族化の進行により、高齢者の単身世帯や夫婦のみでの暮らしが増加している。そのため介護をする若者がいない住居で、最期まで暮らすことは以前より難しく、施設への入所を余儀なくされる高齢者は数多くいる。

一方高齢者が最期まで地域居住をすることの一助として、住宅のバリアフリー化や小規模多機能施設の充足化、地域コミュニティの醸成、外出しやすい地域環境の整備等が有効とされる。そこで本研究では、高齢者の外出目的となる日常的な散歩行動に着目し、外出しやすい経路の特性を明らかにすることを目的とする。

2. 本研究の位置づけ

森ら¹⁾の研究では、自然の豊かさや安全、馴染みなどの要件が散歩行動の場所・経路に影響するケースがあると述べ、また外井ら²⁾の研究では全ての年代の方を対象に、散歩行動の実態と対象者が散歩空間へ要求するもの等を明らかにしている。

しかし、高齢者の散歩行動の経路の特性を明らかにしているものはほとんど見られなかった。そこで本研究では、高齢者が散歩行動をとりやすい経路の特性について研究する。

3. 研究対象

対象地域は、高齢化率が 23.16% (23 区内第 5 位)³⁾ の東京都荒川区とする。荒川区は 23 区内で生活支援制度や病気予防サービス等が最も充実している⁴⁾とされているため、高齢者が外出しやすい地域環境の整備も進んでいると考えられる。

4. 研究方法

荒川区内の老人福祉センターにて、ヨガや体操、文

化活動などを定期的に行っている 60 歳以上の方々に、アンケート調査・ヒアリング調査を行う。アンケート調査では、対象者の概要と散歩や外出に関する基本情報を収集し、さらにその中で数名にヒアリング調査を行い、地図上で実際の散歩経路を調査する。

5. 調査結果

5-1 散歩行動の実態

アンケート調査の結果は fig.1～fig.8 に示す。散歩の有無と頻度より、対象者 33 人のうち 72%は週に 1 度以上散歩を行っていることがわかる。(fig.1, 2) かける時間は 1 時間未満の割合が 87% (fig.3), 時間帯は朝と昼で 72%を占める。(fig.4)

体を動かしたいという動機で散歩をする人が多く (fig.5), そのうち 12 人中 7 人は「公園」に立ち寄っていた。fig.6 より、立ち寄る場所は「公園」が最も多く、そのうちの半数以上が fig.8 の妨げ・危険だと感じるものにおいて、「駐輪されている自転車」と「段差」を選んだ。また fig.7 において、座れる場所を選んだ 7 人中 6 人は「神社」または「公園」に立ち寄っていた。

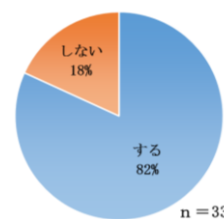


fig.1 散歩の有無

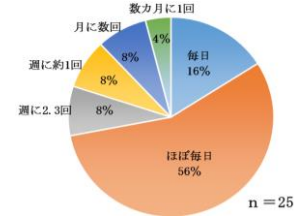


fig.2 散歩の頻度

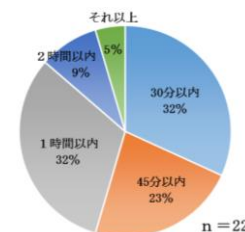


fig.3 散歩にかかる時間

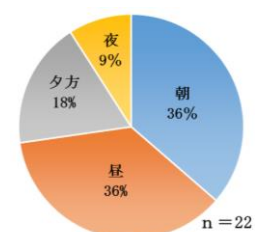


fig.4 散歩をする時間帯

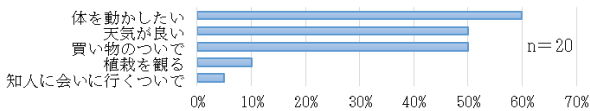


fig.5 散歩をする際の動機

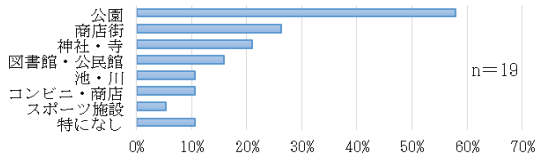


fig.6 立ち寄る場所

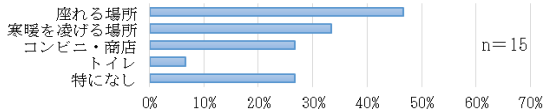


fig.7 あると良いもの

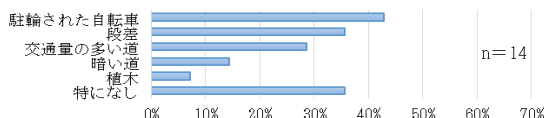


fig.8 妨げになるものや危険だと感じるもの

5-2 経路の特徴

アンケート調査で回答を得られた中で、ヒアリングの協力を得られた7名の対象者(A~G)の散歩経路を調査した。複数の経路を気分によって選択している人と、毎回同じ経路を散歩する人に分かれたが、以下の傾向が見られた。

(1) 歩車分離された大通りを通る傾向

閑静な住宅街よりも、大通りを歩く人が多い。この理由として、大通りは道幅が広く、歩車分離も完全になされており安全性が高いこと、また道沿いの1階部分が商店である建築が多く、賑わいを感じられることが考えられる。

さらに散歩経路を歩車分離されている道とされていない道に分けると、経路となる84%の道が歩車分離されている空間であったため、潜在的に安全性を考慮して経路を選択していると考えられる。(fig.9)

tab.1 対象者の散歩経路の距離と立ち寄る場

対象者	経路	経路				立ち寄る場				
		歩車分離	歩車分離	合計距離	その他	公園	駅	商店街	図書館	その他
A		200m×2	25m×2	450m	ウォーキングコースを1周	○				
B		473m	-	473m	公園内	○				喫茶店
C		481m×2	104m×2	1170m	-	○			○	
D		1228m×2	264m×2	2984m	-	○				
E	1	174m×2	-	444m	歩道橋	○				
	2	788m×2	48m×2	1670m	-	○	○			
F	1	127m×2	38m×2	330m	ウォーキングコースを2.3周	○				○
	2	156m×2	-	312m	-					○
G	1	351m×2	159m×2	1020m	-			○		
	2	320m×2	-	640m	-	○				
	3	799m×2	282m×2	2162m	-					神社・スポーツ施設
合計		9719m (84%)	1840m (16%)	11559m (100%)		4	3	2	2	

対象者E~Gは、日によって経路を変えるため、複数の経路が存在する

(2) 以下のどちらかに分類できる

・着座できる空間を目的地にする傾向

大通りは経路になりやすい一方、着座できる場所はバスの停留場以外ない。そのためベンチの多くある神社や公園まで到達することを目標に散歩し、そこから復路に切り替える人が多い。

・駅や商店街など賑わいのある空間に向かう傾向

アンケートでは立ち寄る場所で「駅」と選択する人は存在しなかったが、経路をヒアリング調査すると、駅周辺や商店街まで行き、往復する人も見られた。そのため賑わいのある空間に潜在的に向かっていると考えられる。

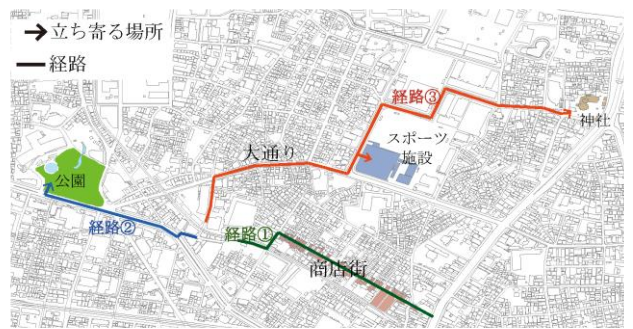


fig.9 経路例 (対象者 G)

6. 結論と展望

対象とした高齢者の多くは頻繁に散歩を行っており、障害物がなく自由に歩くことができ、休憩として着座もすることのできる場として公園や神社に立ち寄る一方、人的交流が得られる場も立ち寄られることが多い。

経路については歩車分離された空間、商店のある賑わいのある空間を通る傾向が得られたが、その途中で着座できる空間や暑さ寒さを凌げる場所がないことが問題であると言える。

また本研究では対象者の基本情報(年齢・性別)と立ち寄る場所や経路との相関性は見られなかったが、今後対象者数を増やすことで相関性が見られる可能性があると考えられる。さらに目印となる場所が持つ要素を詳細に分析し、どのような要素をもった場所が立ち寄る場所になりやすいかを調査する必要がある。

7. 参考文献

- 1) 森一彦ら：2つの異なる地域環境における高齢者の散歩行動の比較分析—既成市街地と新興住宅地におけるケーススタディー、日本建築学会計画系論文集、No.583, pp.53-59, 2004.9
- 2) 外井哲志ら：都市部における散歩行動特性に関する研究、土木計画学研究・論文集、No.16, 1999.9
- 3) 総務省「平成27年住民基本台帳年齢階級別人口」
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei02_03000062.html
- 4) 日本経済新聞「シニアに優しい街」
<https://vdta.nikkei.com/datamap/senior/>平成29年9月28日閲覧